



おもてなし山形株式会社(DMC)の創立
(写真提供 山形市)

ウインドの増加が期待されます。

注) DMO (Destination Management Organization: 地域の観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人)

DMC (Destination Management Company : DMOの一形態(企業体))

LCC (Low Cost Carrier : 低コスト (格安) 航空会社)

●町田 山形空港も活性化が必要で、LCCの誘致を考える必要がありますね。インバウンドにおいては、空港に着いてからの足の確保、すなわち二次交通の充実も重要です。

●佐藤 山形県の昨年のインバウンド数は東日本大震災前のピークを超えましたが、インバウンドの多くが個人旅行なので交通ルートの強化が重要です。仙台空港と山形市間の空港直行バスも復活しましたし、震災後、観光についても東北全体でやっていこうという気運が高まったと思います。

●町田 東北地方は江戸時代の藩体制の残滓なのか、地域性が強い傾向にあります。これを越え連携を促すのが観光だと考えられます。

定年後の高齢者は、俳句、囲碁などを趣味にする方が多いと思いますが、芭蕉の足跡を追うだけでも観光ルートができると思います。

●佐藤 確かにそういう趣味をお持ちの方々に山形を周遊してもらいたいですね。「奥の細道」の芭蕉の句も、宮城から山形に入ったところでもいいものがたくさんある気がします。

●町田 芭蕉の句風は、太平洋側から峠を越えて山形に入って変わったともいわれています。もう一人、山形で忘れてはならないのは歌人の斎藤茂吉ですね。

インバウンドも重要ですが、これから増える高齢者が国内観光をしてもらえる仕組みづくりも大切だと思います。

●佐藤 斎藤茂吉の歌碑を蔵王周辺にさらに設置する

ことを検討中です。いろいろな観光ニーズをマッチングさせていくのがDMO、DMCの役割だと考えています。

故郷に戻ってこられるまちづくり

●町田 山形市の創生総合戦略「山形市発展計画」では人口ビジョンがかなり強気の見通しになっていますが、

●佐藤 人口の問題は対応が難しくハードルが高いことは認識しています。本市は、中核市を目指すということで人口30万人を目標として掲げてきましたが、このための取り組みが不十分であったことは否めません。「山形市発展計画」の策定を契機に、やれることは全部やっていくということで臨んでいます。市役所内からもいろいろな新しい発想ができています。

●町田 人口を維持、増加させるためには特に若者を増やすことが必要ですが、若者の移住、定住、出生率の上昇のための施策はどのようなものでしょうか。

●佐藤 若者を増やすという観点では、まず、働く場所を確保する必要があります。地元企業の悩みを解決し応援する施策の他、企業誘致も重要です。荘内銀行さんにもご尽力いただきましたが、中央インター産業団地にシャチハタさんの研究所と工場が先日竣工しました。これで産業団地の93%が埋まったことになりました。

また、安心して子育てができるということも重要です。例えば保育料については、第2子を軽減、第3子は無料にすることにしました。保育所の増設、学童保育の充実、病児保育の開始、産後ケア制度などに取り組んでいます。出産から学童期に至るまで一貫した支援を行えるようにしており、他の都市と比べても子育て支援は高い水準にあると思います。

●町田 移住、定住促進ということでは地域の魅力をどうやってPRするかも重要です。

●佐藤 これまで本市に住む魅力の発信が十分ではなかったため、「リアルローカル山形」というインターネットサイトでUターン、Iターンしてこられた方の目線で発信していただいています。例えば、年取が多くても、東京では家も狭いし満員電車で長時間通勤です。本市ではそういうことはなく、生活の質が違います。

本市を含め山形には優良な企業がたくさんありますが、本市を離れた方には必ずしもそういう認識がないことがあります。東京での企業説明会、親御さん向けの説明会、「ジョブっすやまがた」という正社員専門の就職支援サイトなどで理解を深めていただく施策を展開しています。

本市では若くても子育てがのびのびできる戸建に住むことができますし、マンションに住むこともできま

す。市街地に住むことも、より自然に近いところに住むこともできます。都市の魅力は総合力であり、コンパクトな市域で土地利用の最適化を図るため、規制緩和も進めていきたいと考えています。

「健康医療先進都市」を目指す

●町田 私の生まれた秋田県は、秋田市へ一極集中の傾向がありますが、山形県は地域毎に特色のある多極分散型でそれぞれが切磋琢磨しているように感じます。

●佐藤 おっしゃるように山形県は多極分散型ですが医療機関は本市に集中しています。人口あたりの病院、診療所数は東北地方でトップクラスです。今後、地方によっては診療科の偏りなどで、バランスのとれた医療が受けられなくなる可能性があります。

本市では医療機関が集中しているという強みを生かしバランスのとれた医療を発展させていくということで、都市のブランドとして「健康医療先進都市」を掲げ取り組んでいます。

●町田 その関係で先日アメリカのミネソタ州ロチェスター市を視察されたと同っています。

●佐藤 もともと健康医療先進都市を目指すにあたってはロチェスター市が念頭にありました。人口11万人と大都市ではありませんが、世界的に著名なメイヨークリニックを中心とした街づくりが行われ、IBM等の工場もあり雇用も増加しています。地方都市の街づくりのあり方として大いに参考とすべきと考えています。

医療技術では日本は遜色ありませんが、ブランドとして「患者第一のメイヨークリニック」が徹底されています。世界中から患者がやってくるので、各宗教の礼拝所が院内に設置されるなど、「患者第一」が隅々までいきわたっています。

●町田 山形大学で計画の中重粒子線照射装置ですが、採算にのせるためには集患の広域化が必要で、東北全体で連携していくことが重要だと思います。

●佐藤 がんに対する関心が高く、これからは重粒子線照射装置のようにがん治療に強いということが大切です。山形大学が中心となって作った「東北がんネットワーク」という基盤ができていますので、これを活用して広いエリアから適切に患者を受け入れていくことが非常に大事だと思います。通訳、保険などの課題もありますが、インバウンド患者の受け入れも考えていく必要があります。

「至誠」を理念に

●町田 市長は東洋思想にも興味を持たれていると



ロチェスター市アーデル・ブレード市長と
(写真提供 山形市)

伺っていますが、どのような理念をお持ちでしょうか。

●佐藤 座右の銘としているのは「至誠」という言葉です。これは孟子の「至誠にして動かざるものは未だ之有らざるなり」というのが出典で、吉田松陰も愛した言葉として有名です。政治家としては、いろいろな場面で説得をする必要がありますが、裏から手をまわすより、真面で正面からぶつかった方が説得できると考えています。

●町田 現在は、いろいろな意味で資本主義そのものの行きづまりが見られます。トマ・ピケティの「21世紀の資本」という本がベストセラーになるなど所得格差の拡大が大きな問題となっています。将来の不安から、高齢者が貯蓄に励み亡くなる間に資産が最大となるようなことも起こっています。だからこそ、これからの世の中を治めていく理念、思想といったものが重要だと感じています。

●佐藤 資本主義というのは、私有財産制度と市場経済の二つが柱ですが、そのなかでいろいろなバリエーションがあり、また問題も生じています。

リーマンショックも行き過ぎた金融資本主義による投機が原因です。資本主義の負の側面を抑えるためには、公共によるしっかりしたルールが必要であり、このルールづくりは政治の大切な役割です。格差の拡大に伴う分配の問題も政治の課題です。

山形で地方創生が実現できれば、全国に広げることができ、格差の問題をはじめとしいろいろな問題の解にもなりうると思います。そのためにも、まず目の前の一つ一つの課題にしっかりと取り組み成果を出していきたいと考えています。

●町田 理念をしっかりお持ちになっているとチャレンジされていることが伺いでき、心強く思います。

本日はお忙しいところ大変ありがとうございました。